

KSKP

たびだち つうしん

出

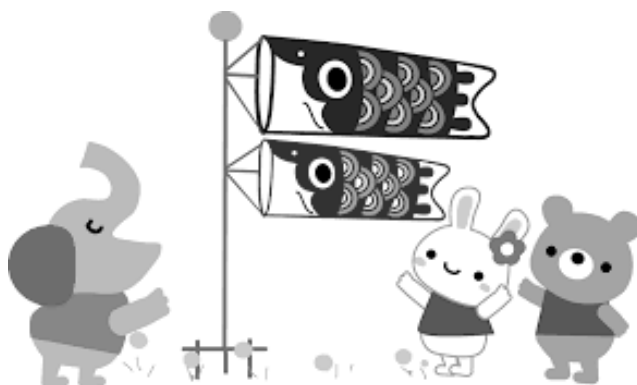
発

通

信

160号

NPO法人 出発のなかまの会



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可  
 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の日 発行

もくじ  
目次

こそだ にっき こどもたちもちいき い 子育て日記「子どもたちも地域で生きてるんだ！」	2
こ ひんこん みらい こ しょくどう ほうこく 「子どもの貧困の未来 子ども食堂をこえて」フォーラム報告	5
あんぜん まも なに グループホームの安全を守るものは何？	6
き ととりの木・ランドリーサービス、はじめました！	7
じんけんけんしゅう 人権研修をおこないました	8
しんぶん どんどん新聞	9
ちいき く ねんとしんにゅうしょくいんしょうかい 地域で暮らしているんだ/2017年度新入職員紹介	10
ねんどそうかい し 2017年度総会のお知らせ	11
かつどう 活動のあと	12

## 子育て日記 「子どもたちも地域で生きてるんだ！」

3月、我が家の双子の息子カズマとユウマが、府立高校に合格しました。「支援学校ではなく、地元の高校でみんなと一緒に学びたい」。そんな強い希望を自分たちの手で掴みました。毎日6時に起きて8時間も机に向かって学習していた二人。春の訪れにウキウキ、高校生活を思うと楽しみでたまらない様子です。

カズマとユウマは全盲で知的障害もあり、点字や音声機器を使っています。ユウマは白杖を使い、カズマは歩行機能にも障害があるので、車いすで通学しています。保育所から中学校まで、ずっと地域で友だちと一緒に過ごしてきました。そんな二人が「地域の高校に行きたい」と言い出すことは、自然な流れでした。学校は楽しいところで、友達と過ごす時間は最高で、地域には自分の居場所がちゃんとあるんだとすでに知っているからです。今まで出会ってくださったたくさんの友だち、先生方、地域の方々への感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、そんな二人の姿をととても誇らしく思いました。

15年前、妊娠7か月で約1000グラムの未熟児の双子として生まれ、そこからたくさんの治療経過があり、命は守れましたが、いくつかの障害が残りました。早産で生んでしまった自分を責め続ける気持ちと、初めての育児が双子で未熟児で障害もあって周りに相談できず、私は精神的に限界まで追いつめられました。このままでは危ないと気づき、1歳7か月の時に子どもたちと離れるために前職



に復帰しました。それが保育所利用の始まりです。そこで、子どもたちの成長と一緒に喜び、悩み、寄り添ってくださる先生方と出会い、「できないこと」の前に「できること」がたくさんあると気づいた私は、ようやく子育てに向き合えるようになりました。

保育所に通いながら盲学校幼稚部にも通園していた時期もありましたが、子どもは子どもたち同士の世界で成長するのだと気づかされるエピソードがいくつもありません。子どもたちは地域の小学校に通いたいと言い、保育所の親仲間や先生方、地域の方々も後押しして下さったので、地域の小学校を選択しました。学校は歓迎してくださっていると感じていましたが、実は大阪市で点字教科書で学ぶ第一号だったと、入学後に知りました。

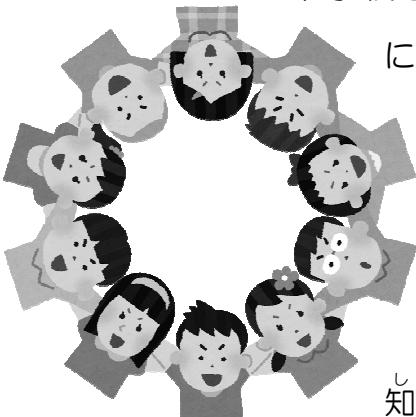
しょうがっこう だいす とも だいす ほうかご とも あそ  
 小学校が大好きで、友だちも大好き。放課後も友だちと遊びたがり、とにかくなんでもみ  
 んなと いっしょ やってみたい。しにん やく しゅじゅつ しっぱい やく とも いっしょ たの  
 しい。下手だけどもみんなとするゲームは楽しい。じてんしゃ たの し いぬ さわ  
 になったのも、友だちがいたからです。がくしゅう せいかつばめん ぎょうじ かだい おお  
 学校はその度に真剣に向き合ってくださいました。

わたし きゅうじつ  
 私は休日になると、カズマとユウマを連れてあちこちに出かけました。目が見えないので、  
 ちよくせつ ふ けいけん りかい おお おや がんば い きこ  
 直接触れる経験がなければ、理解できないことも多いのです。親が頑張らなければ、と意気込  
 んでいましたが、おとうと うまれ、しょうがいしゃ しせつ すいえいきょうじつ つ そ  
 した。そこでガイドヘルパーの相談をしたのが、「出発のなかまの会」と子どもたちとの出会い  
 です。

わたし ちいき あ まえ く てつだ うかが しょうがいしゃ  
 「私たちは地域で当たり前で暮らすお手伝いをさせていただいています」と伺い、障害者  
 しせつ ではなく くみん 池に行ってみないかと提案して下さった時、とても戸惑いでしたが、  
 しだい その いみ わ ほうかご とも てあ たが  
 次第にその意味が分かってきました。放課後にバスやプールで友だちと出会うことはお互いと  
 ても しんせん つぎ ひ がっこう わだい みせ し あ こ  
 は親の知らないうちに、自分の力でどんどん世界を広げ、地域に根付いていきます。自分を知  
 ってくれる人がたくさんいるこの地域は、子どもたちの安心できる場所になっていきました。

まへむ じまん ふたり おもしろ なん たびだち  
 そして前向きさが自慢の二人は、面白そうと感じたら何でもチャレンジしました。出発のな  
 かまの会 かいぜんたいひょうり じ かい かつどう し あ なかま たてやま のりくら にしほだか みたび  
 の夏山登山へ。やりたければとにかくやってみる。たいていのことは何とかなる。そんなこと  
 をまな おお じしん み  
 を学び、大きな自信につながったように見えました。

ちゅうがっこう せんたく わたしじしん なや いっしょ い  
 中学校を選択するとき、私自身は悩んでいました。「みんなと一緒に行く  
 きに決まってるやん！」とはっきり言われた時は、ふたり せなか  
 と押されたような頼もしさがあり、子どもたちと友だちに思いを  
 たく ちいき ちゅうがっこう しんがく き にゅうがく む  
 託して、地域の中学校への進学を決めました。入学に向けて、  
 『こども将来計画』を立ててもらおうこととなり、たくさんの友  
 だちがあつ ました。わたし し ふたり かお  
 知っていて、あれこれアドバイスをくれている友だち。いつの間に



ふたり しゅうい かんけい じぶん きず げん とも き  
 が二人は、周囲との関係を自分で築いていて、現にこんなに友だちが来てくれている。そんな  
 ばめん かんどう はじ わたし わたし し だいじょうぶ かん  
 場面に感動し、初めて私は「ああ、もう私が死んでも大丈夫だな」と感じました。

ちゅうがっこう にゅうがく おな さんか りくじょうぶ はい い  
 中学校に入学すると、みんなと同じようにクラブに参加したい、陸上部に入りたいと言  
 だ こうちょうせんせい じきそ ちいき ねが ねんかんかつどう  
 出し、校長先生に直訴。地域のボランティアさんにもサポートをお願いし、3年間活動しま  
 した。とうこう がくしゅう ちいき おお かが ちゅうがく  
 した。登校や学習にも地域のボランティアさんが多く関わってくださいました。中学では、  
 とも いちだん たの そんざい ししゅんき きも あんてい ふたり  
 友だちが一段と頼もしい存在になりました。思春期で気持ちが安定しなくても、やはり二人を  
 き こえ をかけてくれます。たいいくたいかい すいえいたいかい どくじ おもしろ さくせん かんが しんけんしょうぶ  
 気にして声をかけてくれます。体育大会や水泳大会では、独自の面白い作戦を考えて真剣勝負  
 してくれたり、きゅうしょく いどう のサポートもしてくれたり、め み えな ふたり だ  
 すいようにわざわざ咳払いをして待っていてくれたり、きたく も LINE で繋がっていたり、  
 すてき そんざい かだい なや ふく ちいき がっこう す  
 とても素敵な存在でした。課題も悩みもたくさんありましたがそれも含めて、地域の学校で過  
 じかん ゆた じかん おも  
 ごせた時間は、とても豊かな時間だったと思っています。

こうこう にゅうがく こうこうそつぎょうご ふたり ゆめ かって か おこ  
 いよいよ高校に入学します。高校卒業後、二人には夢があります。勝手に書くと怒られそ  
 うですが、カズマはおんせいそうさ でんしゅ うんてんしゅ じぶん そだ ほいくしょ ほいくし  
 うですが、カズマは音声操作でできる電車の運転手に、ユウマは自分の育った保育所の保育士  
 をめざ しようき ちいき とも す じぶん おな  
 を目指しています。幼少期から地域で友だちと過ごしていくことで、自分もみんなと同じひと  
 りの人間なんだと実感し、にんげん じっかん じぶんじしん たいせつ おも  
 自分自身を大切に思うことができるのではないかと、そしてより豊か  
 じぶん じんせい あゆ ふたり み おも きょう ころ  
 に自分らしい人生を歩んでいけるのではないかと、二人を見ていて思う今日この頃です。

(マサミ・O)



## 「子どもの貧困の未来 子ども食堂をこえて」フォーラム報告

3月20日、私たちもメンバーの一員になっている“生野子育て社会化研究会”の主催で「子どもの貧困の未来 子ども食堂をこえて」フォーラムを開催いたしました。

昨今の“子ども食堂ブーム”もあってか、会場には140名の方が集まってくださいました。前半のフリーライター・みわよしこさんの基調講演では、子ども食堂の経緯や課題、展望について、アメリカの民間の取り組みや寄付・助成の仕組みなどを紹介していただき、ご自身の“当事者”としての問題意識もお話ししていただきました。「子ども食堂は“絆創膏”にすぎないかもしれない」との言葉は私の胸にストーンと落ち、応急処置としての“絆創膏”の役割・必要性、エンパワメントへの可能性と同時に、根本解決のためには“絆創膏”を超える手立てが必要不可欠であることを再確認させられました。

後半は、研究会の参加メンバー4名より子どもたちとの活動の経緯・現状・課題を、研究者3名より子どもの貧困課題の整理と専門家としての参画の意義などをパネルディスカッション形式で発表してもらいました。地域の子どもの虐待にあったのを契機に活動をはじめた方、「中高生だった時、家でも学校でもない第3の居場所が欲しかった」と言う19歳女性の思いを形にする活動をはじめた方、シングルマザーとしての当事者性から活動をはじめた方、ニートや引きこもりの支援を続けている方など、きっかけや活動の形は様々ですが、それぞれの地域で見えてきたニーズに真摯に向き合っておられる生の声を聞かせていただく貴重な機会となりました。アンケートにも90名以上の方がご協力くださり、長文で意見をお寄せくださった方も多く、この問題への関心の高さ、皆様方の思いを感じることでとなりました。盛りだくさんの内容で、参加者との意見交換の時間を充分に取れなかったのが残念でしたが、次回ワークショップ形式での開催も考えられたらとも思っています。

当会でも子どもたちとの活動機会が増え、想像以上に“しんどい状況”に陥っている子どもたちになんとか寄り添い、葛藤しながらの日々を送っています。“生野子育て社会化研究会”は、生野区に暮らす子どもたちや家庭の実態を可視化し、“待ったなし”の子どもたちより有効な支援を進めていくため、「調査」、「研究」、「実践」、「評価」、「モデル事業」、「政策提言」を行い、子どもたちや家庭の課題を解決していこうと発足しました。今回、「目の前のニーズに心えていたら、活動は常に不安定で、安定することはない」という研究会メンバーの言葉にハッとさせられました。“安定”を求めるあまり当事者のニーズをないがしろにすることのないよう、改めて自分たちの活動も見直さなくてはと思っています。これからも多くの方々とのつながりの中で取り組み続けたいと思います。

(ミサオ、K)

## グループホームの安全を守るものは何？

2013年に長崎市で起きた認知症高齢者グループホームの火災を機に、消防法が改正され、自力避難が困難な人が入居者数の8割以上のグループホームは、平成30年3月までにスプリンクラーを設置しなければならなくなりました。

私たちはこれまで、グループホームは大きな施設ではなく、一般の住宅となんら変わりない、普通の住まいであると主張してきました。すべてのホームにスプリンクラーを設置すると、賃貸の共同住宅（マンションなど）に入居しているホームは設備を付けることが許されなければ退居しないとけない可能性も出てくるということで、大阪市消防局、大阪市、大阪府、障害者団体とで話し合いを重ねてきました。話し合いの末、なんとか、大阪市では特例を作って内装不燃化や夜間の支援体制を整えることなどで、スプリンクラーの設置を免除できるようになりました。

スプリンクラー設備は、建物を新築するときに設置すれば配管もきれいにおさまるのですが、既存の建物に取り付けるとなると大変です。スプリンクラー設備が必要になった当会のあるホームでは、建築当初のみんなの思いが詰まった意匠の上に配管が露出することになってしまい、残念でなりません。また、大阪府内でも大阪市以外の市町村では公営住宅やマンションなどの共同住宅に入っているグループホームがそのまま住み続けることが難しくなって転居を余儀なくされたところも出てきています。

避難時間を確保し、命を守るための消防設備とはいえ、住むところを追いやられるようでは障害者の暮らしが後退してしまいます。設備で守られる暮らしよりも十分な支援を確保し、人によって守られる暮らしのほうが良いと思います。相模原で事件が起きたときも、大阪市はすぐにグループホームに防犯設備を導入するための補助金を出しました。何か起きるごとに十分な検討がなされないまま、対策だけがすぐに講じられ、グループホームが普通の住まいから離れていってしまう怖さを感じずにはいられません。

とはいえ、法改正はまったなしで始まりました。これを機に設備整備だけでなく避難訓練や災害時の対応なども一度見直してみても積極的に取り組んでいきたいと思えます。ハード面の整備だけでなく、十分な支援者が配置されるよう、ソフト面のいっそうの充実を望みます。

(カオリ・I)



## ととりの木・ランドリーサービス、はじめました！

どんぐり作業所(田島2丁目)から無事引越しが完了し、2016年10月3日月曜日、巽西2丁目に“はたらく・つながる「ととりの木」”が始動しました。開所に伴い、「地域のみなさんのちょっとしたお困りごとを、活動にできないか?」「地域のみなさんと、もっともっとつながっていきたい!」と、“ととりの木ランドリーサービス”を始めました。毛布やシーツなど“洗うのも干す場所にも困る“という大物を中心に、回収から、洗濯、乾燥、ご自宅への配達までおこなうサービスです。但し、クリーニングのように専門的なことはできないので、大型洗濯機で洗剤のみの洗濯に限定しています。おかげさまで、顔なじみの方々からのご依頼やご紹介で、毛布やカーペット、カーテン等の注文をいただいています。

まずはこの活動を「地域の方に知ってもらおう」とオープンチラシを作成、メンバーとスタッフ全員でポスティングをしました。メンバーにとって、田島は長年住み慣れた地域です。「メンバーによっては難しいんちゃう?」と、心配するスタッフの期待を見事に裏切り?!メンバー全員、自身のペースを守りながら配布することができました。

最初の注文は“グループホーム和楽苦荘”のお向かい、キムチ屋の女将さんでした。洗濯が完了し、配達に行ったのはKさんです。それからKさんは、このキムチ屋の前を通るたびに「この前はありがとう」と挨拶しています。女将さんはお店のお客様にチラシを見せ、宣伝してくれます。“挨拶をし、感謝を伝え続ける”ことで、人は“つながる”ことを教わりました。

今年3月、新しいチラシが完成しました。一戸ずつチャイムを鳴らし、挨拶しながら配布しています。インターホン越しに「うちには結構です」と断られ、心が折れそうになることもあります。そんな時は、励まし合い、力を合わせて地域を回っています。ある工場事務所のチャイムを鳴らすと、女性の方が出てこられました。お話をしていると突然、前出のKさんが「僕のこと知ってる?」とその女性に尋ねました。「知ってますよ。いつもココを歩いてるよね」と女性が答えると、Kさんは満面の笑みを浮かべ「よかったわあ」と言いました。工場前はKさんの通勤路です。その女性も、毎朝見かけるKさんのことが気になっていたようです。「これが地域の人と“つながる”ってことか!」と背中がゾクとしたことを、今でも忘れられません。“顔を合わせて挨拶する”ことの大切さを、ここでも教えられました。

田島から引越して半年、この活動を通じメンバーから学ぶことばかりです。さて、明日はどこでつながるのかな?

(アツコ・S)

## 人権研修をおこないました

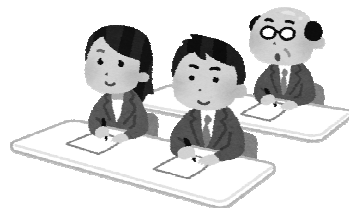
当会では、毎年全職員を対象に人権研修をおこなっています。今年は研修日を3日間設定したこともあり、全員が出席しました。

今年の講師は大阪府断酒会さんと自立生活センター・どんだんさんをお願いしました。大阪府断酒会さんから、2日間で7名の方に来ていただき、生い立ちやお酒を飲むようになったきっかけ、今の心境など赤裸々に語って頂きました。「母親もアルコール依存症のような状態で自分の青春期は母親のフォローで過ぎていった。自分も仕事がうまくいかなかった時に酒を飲むようになった。今は断酒できているが、母親を恨んでいる気持ちがある。少しずつ恨みを手放せればよいなと思っている」と、語って頂いた方もあり、これほどまで自分をさらけ出すにはどれほどの葛藤があったらと頭が下がりました。

どんだんからは2名のメンバーが“わたしの地域生活”を語ってくれました。Mさんはグループホームで生活を始めて1年あまりですが、どんな決意で実家を出たか、幼いころから仲間に支えられてきたことなど必死に思いを伝えてくれました。そして最後には得意のカラオケを披露。オーディエンスに手拍子を求めて会場が大いに盛り上がったところで、カウントダウン! 「3! 2! 1! …」(さあいよいよ始まるぞー) と思ったら、「7! 6! …」またカウントが始まり、みんなですっこけました。

Kさんは講演の練習をしている時に、「講演をお姉さんにも見てもらいたいなあ」と言っていました。そういえば、何度もあちこちで講演をしているけれど、お姉さんに見てもらったことはありません。早速お姉さんに連絡をとってみると来て下さることになりました。練習の時はバッチリはっきり自分の思いを語ってくれたKさんですが、本番では緊張も疲れもありで、ポツリポツリとはありましたが、こんなことをヘルパーさんとしたいなあ。こんなことがあって嫌やったなあと伝えてくれました。後日ヘルパーさんから「あんな風に語れる力がある事にびっくりした。また是非聞かせてほしい。」「自分も知らず知らずのうちに嫌な事しているかも知れないと反省した」などの感想が寄せられました。

断酒会代表のIさんが「断酒会は“そこに居て良いという居場所” “居心地の良いところ” にならないといけないと思っている」と言われていました。誰もが排除されない、安心できる地域を作っていくなくてはならないと決意を新たにしました。



(ユカ. S)



©どんどん新聞 No.145 から抜粋しています

しんぶん  
どんどん新聞 No.145



はっこうび 2017 年 1 月 16 日  
はっこうしゃ じりつせいかつ  
発行者 自立生活センター・どんどん  
おおさかしいくのくたしま  
大阪市生野区田島 1-10-30  
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



さがみはらじけん せいめいぶん  
相模原事件について どんどんからの声明文

どんどんでは、さがみはらしのやまゆりえんおで起こったじけんについて、なんどはなしをしました。なんどはなしをしてもやっぱりはらたが立つし、くやくやしいです。このおもいを多くの人に伝えるため、せいめいぶんをみんなでまとめました。

えん じけん せいめい  
やまゆり園での事件についての声明

じりつせいかつ  
自立生活センター・どんどん

わたし じけん き こわ かん  
私たちは事件を聞いてとても怖く感じました。

ひとりでいるのがこわい  
です。

はんにん わら ゆる  
テレビのニュースで犯人が笑っていたのが許せません。

はんにん しょう しゃ い  
犯人は「障がい者なんていない」と言いました。

しょう しゃ  
なんで？障がい者いるやん。

おな にんげん ころ  
同じ人間なのにどうして殺されなくちゃいけないんですか？

くやく  
イライラするしめっちゃ悔しい！

ころ ひと  
殺された人がいるのもめっちゃくやくしい！

しょう わたし にんげん  
障がいがあってもなくても私たちは人間です。

まいにちはたら じぶん じぶん き  
毎日働いているし、自分のことは自分で決めているし、

ちいき ふつう く  
地域で普通に暮らしているんです！

わたし はなし き  
私たちの話をもっと聞いてください！

わたし し  
私たちのことをもっと知ってください！！

## ちいきく 地域で暮らしているんだ



ひとり  
1人暮らしをしました。

はじめは区役所にいっぱい行った。

E (相談支援事業所) も行った。

なれてくると、やさしいため、ししとうをいためて、かつおぶしでたべる。

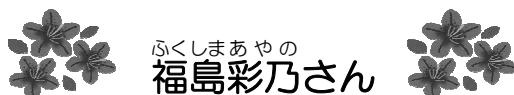
センタクは、まいにちする。

いやなこと。お風呂にまいにち入るのがメッチャいやだ。

たのしいこと。DVD まいしゅう5本見る。

(サヨコ・H)

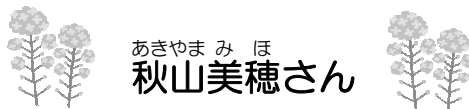
## ねんとしにゆうしょくいんしょうかい 2017年度新入職員紹介



ふくしまあやの  
福島彩乃さん

今年度から子どもゆうゆう広場・みらくるちっぴで働くことになりました、福島彩乃と言います。趣味は音楽鑑賞に舞台鑑賞(ミュージカル)です。今年ですが、好きな俳優さんを観に行くために東京に行きました…! 時間と余裕があれば追っかけていきたいです! あと散歩やサイクリングが好きで、桃谷からみらくるちっぴまで(約2km)歩いたり、河川敷を自転車で駆け抜けたりします。

2014年の夏からみらくるちっぴでアルバイトとして約2年半働き、ここで就職することになり、運命を感じています。今までに学んだことや思い出を胸に刻み、心機一転、職員として自覚と責任を持ち新しい気持ちで成長していきたいです! よろしくお祈いします!



あきやま み ほ  
秋山美穂さん

4月から桃栗館に配属になりました、秋山美穂です。

趣味は、料理やヨガをはじめから、自分自身に向き合う時間を作ることで、心の余裕が感じられ、健康に過ごせるものなら何でもとりいれたい! と色々、試している感じです。年々健康オタクになりつつある気がします。

最後に意気込みとして、メンバーが、日々活動的に過ごせるような支援を皆様方と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。宜しくお祈い致します。

## 2017年度総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。本当に多くの方々を支えていただき、2016年度を終えることが出来ました。これからも“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、当事者の方や地域の方と共に『地域』づくりの取り組みをすすめていきたいと思ひます。

下記の日程で、2016年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時： 2017年5月27日(土) 10時30分～12時30分

場所： KCC会館(大阪市生野区中川西2-6-10)

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください!

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方

会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方

寄付金 年間3,000円以上

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置

【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。

認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、

100人必要です。

ご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方

購読料500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※すでに寄付金をいただいた方にも事務作業の都合で振込用紙を同封します。お許しください。

通信の郵送がご不要の方はご一報ください。

活 動 の あ と

1/6	グループホームスタッフ全体会議	3/7	消防設備点検①
1/7	内部研修(発達障害勉強会)	3/8	消防設備点検②/生野区学童期のこども支援連絡会
1/11	Iさん IFP(個人将来計画)会議/生野区グループホーム連絡会世話人会	3/9	生野区グループホーム連絡会世話人会
1/12	Hさん応援会議/執行委員会/成年後見推進委員会	3/9	執行委員会/人権研修①・契約更新手続き/ひとり暮らし支援会議
1/13	桃谷高校講演(どんどん)/人権研修打ち合わせ(大阪府断酒会)	3/9	執行委員会/人権研修①・契約更新手続き/ひとり暮らし支援会議
1/14	みらくるランチ会【松野農園】	3/10	人権研修②・契約更新手続き
1/15	生野区就職フェア/大阪小児在宅医療を考える会	3/10	人権研修②・契約更新手続き
1/17	桃谷高校講演(どんどん)/Eプロジェクト会議(どんどん)	3/11	人権研修③・契約更新手続き/みらくるランチ会【松野農園】
1/18	出発通信発送/生野区学童期のこども支援連絡会	3/11	知的障害者(児)が「トヘルバ」養成講座(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
1/20	食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん	3/13	Eプロジェクト会議(どんどん)/通信編集委員会
1/23	障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	3/14	喀痰吸引安全委員会
	生野区NPO連絡会	3/15	Yさん IFP(個人将来計画)会議
1/25	生野区NPO連絡会/地域共生型福祉サービス運営推進協議会(あでらんて)	3/16	Nさん IFP(個人将来計画)会議/要対協ケース会議
1/26	地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ)	3/17	食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん
1/26~27	岡山旅行	3/18	見学受け入れ(日本NPOセンター)/敷居の低い読書会 心の添え木【松野農園】
1/27	障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会	3/18	知的障害者(児)が「トヘルバ」養成講座(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
1/31	作業所ミーティング	3/19	みらくるクラブ(あそぼうパン作り)【鶴見緑地公園】
2/3	グループホームスタッフ全体会議	3/20	どんどんプロジェクト会議/子ども食堂をこえてフォーラム開催
2/6	作業所業務見直し会議	3/21	作業所ミーティング
2/7	理事会	3/23	執行委員会/Hさん IFP(個人将来計画)会議/赤倉スキー旅行報告会
2/8	生野区グループホーム連絡会	3/23	執行委員会/Hさん IFP(個人将来計画)会議/赤倉スキー旅行報告会
2/8~10	赤倉スキー旅行	3/24	地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ)
2/9	執行委員会/Hさん IFP(個人将来計画)会議	3/24	きらら・らいすケア会議/障大連運営委員会/生野区NPO連絡会地域共生ケア生野推進委員会
2/10	現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト入賞者表彰式	3/25	松野農園寄席【松野農園】/内部研修(発達障害勉強会)
	作業所スタッフ勉強会	3/26	舎利寺セール outlet
2/11	みらくるクラブ同窓会(冬山登山)【金剛山】	3/26	五条小学校食物アレルギーをもつ子どもたちのランチ会松野農園
2/13	生野区育ち社会化研究会/作業所業務見直し会議	3/27	障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
2/16	Tさん IFP(個人将来計画)会議		ランチ交流会ミーティング
	地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ)	3/28	どんどん・職員懇談会/入学入園おめでとう会【みらくるちっぷ】
2/17	避難訓練/食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん	3/29	Eプロジェクト会議(どんどん)
2/20	Kさん応援会議/作業所業務見直し会議	3/30	職員研修講師(NPOちゅうぶ)
2/21	岡山旅行報告会	3/31	スプリングラー工事完了(グループホームかのん)
2/22	作業所ミーティング/生野区NPO連絡会	4/5	二者会議
	地域共生型福祉サービス運営推進協議会(あでらんて)	4/7	作業所花見(京都・背割堤)
2/23	Oさん IFP(個人将来計画)会議/生野区学童期のこども支援連絡会	4/8	みらくる中高生の会
2/24	スプリングラー工事入札(グループホームかのん)/障大連運営委員会	4/12	合同初任者研修(生野区グループホーム連絡会)
	医療的ケア研修/地域共生ケア生野推進委員会役員会	4/13	執行委員会/生野区自立支援訪問系事業者連絡会
2/27	障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	4/14	作業所スタッフ勉強会
2/28	Kさん IFP(個人将来計画)会議/障大連全体会議	4/15	敷居の低い読書会 心の添え木【松野農園】
3/2	見学交流(食と農のプロジェクトをすすめる会 東住吉・桑津「ハートランド」)	4/18	作業所ミーティング
3/2	見学交流(食と農のプロジェクトをすすめる会 東住吉・桑津「ハートランド」)	4/19	内部研修(新人職員研修)
3/3	グループホームスタッフ全体会議/作業所スタッフ勉強会	4/20	生野区学童期のこども支援連絡会
	知的障害者が「トヘルバ」養成講座講師(松原高等学校)	4/21	食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん/障大連運営委員会
3/4	防災セミナー【はたらく・つながる「とりの木」】	4/21	NPO法人「どうで」(奈良・山添)第三者検証委員会
	知的障害者(児)が「トヘルバ」養成講座(生野区自立支援訪問事業者連絡会)	4/22	障大連総会
	NPO法人「どうで」(奈良・山添)第三者検証委員会	4/24	障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
3/3	グループホームスタッフ全体会議/作業所スタッフ勉強会	4/25	成年後見推進委員会
	知的障害者が「トヘルバ」養成講座講師(松原高等学校)	4/26	生野区NPO連絡会/地域共生型福祉サービス運営推進協議会(あでらんて)
3/7	消防設備点検①	4/27	地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ)
3/8	消防設備点検②/生野区学童期のこども支援連絡会	4/28	和楽苦荘・かのんケア会議/地域共生ケア生野推進委員会役員会
	生野区グループホーム連絡会世話人会	4/29	内部研修(グッドスタート会議)
3/4	防災セミナー【はたらく・つながる「とりの木」】		
	知的障害者(児)が「トヘルバ」養成講座(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)		
	NPO法人「どうで」(奈良・山添)第三者検証委員会		

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の日 発行  
 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4階 頒価百円

へんしゅうこうき  
**編集後記**  
 早いもので新年度になりました。“新年度”という言葉は聞くたびにワクワクします。環境が変わり、どんな事があるのかな？どんな人と出会うのかな？って考えるだけで楽しいです。昨年度の自分とは違う新たな自分も発見出来るかも！（ワカナ・K）

編集人  
**特定非営利活動法人 出発のなかまの会**  
 〒544-0011  
 大阪市生野区田島1-10-30たびだち共働作業所内  
 TEL 06-6758-6641  
 FAX 06-6758-6749  
 郵便振替 00910-9-306080  
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
 Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp  
 ホームページ http://www.tabidati.jp/ 700部